

トイレの話

7L2WVR 久保木尊史

我が家には古いトイレがある。
父が生前、それも鉄工所を営んでいた時に作った野外の和式トイレだ。
野外と言っても外階段の下なので、雨風は防げるが四方を囲っただけで天井は無い。
家族は家の中のトイレを使うので、このトイレを使うのは、今では僕だけになっている。
夏は暑く冬は寒い、天然の冷暖房完備で、おまけに野外なので居候たちもいる。
居候たちと僕は、暗黙の平和条約が結ばれている。
彼らはトイレの中で僕が動く範囲には蜘蛛の巣を張らない。
僕も支障がなければ彼らの巣はそのままにしてあげている。
彼らは蛾などの虫を捕ってくれるので、こちらにも都合が良いのだ。

ところがある日、問題が起きた。
僕がトイレのドアを開け、中に入ると、「バサ！」
頭から顔に蜘蛛の巣がベッタリ。
今まではこんなことは無かったので、安心して入ったため、モロに被った。
慌てて外に出て、張り付いた蜘蛛の巣を外す。
怒り心頭、思わず激怒してトイレの中に怒鳴った。

「誰だっ！ こんなところに蜘蛛の巣を張ったのは！」

そして用を足していると、トイレの中が何ともいえない、気まずい雰囲気。
蜘蛛たちのヒソヒソ声が聞こえるような雰囲気だ。

(仲間) 「あ～あ、怒らせちゃったぞ」

(犯人) 「うあ～、どうしよう！」

(仲間) 「だから言ったんだよ、あそこに巣を張っちゃダメだ！ って。
どうすんだよ！、あいつ、マジで怒ってるぞ」

(犯人) 「うえ～ん (泣き)」

自分も冷静になってみると、蜘蛛たちに向かって「誰だ！」って言うのも笑えるよな。
思わず蜘蛛たちに向かって怒鳴った自分にも可笑しくなってきた。

そんなこんなで、それ以来、十数年経つが、未だに一回もトイレの入り口だけは、
蜘蛛の巣は張られていない。

7L2WVR 久保木尊史